

【テーマ2】 大阪教育大学

教師の養成・採用・研修の一体的改革推進事業

(英語教師を目指す学生を対象とした海外留学を含む教員養成プログラムの開発)

調査の概要

◆課題認識

- 日本人の英語力向上に向けた英語教育改革に目立った成果が見られない
- 英語教員の英語力および英語教授スキルの不足が根本原因では？

◆調査研究の目的

高度な英語運用能力と言語習得・教育理論に裏打ちされた英語指導力を備えた教員の養成のためのハイブリッド海外研修開発とそのカリキュラム化

◆研修先

- 研修A：カナダ・ビクトリア大学
- 研修B：豪州・グリフィス大学（英語研修）
タイ・チェンマイ大学（指導法）

◆研修の内容

- 7週間のオンライン研修（指導法研修）
- 4週間の留学先での英語研修
- 1週間程度の留学先での指導法集中研修
→ 令和6年12月から令和7年3月にかけて実施

取組のポイント・成果

◆これまでに達成した点

- ギャップタームの活用
- 教員養成科目としての位置付け（専攻専門科目「第二言語習得論」単位化）
- 他大学からの参加者（R5：北海道教育大学・R6：東京学芸大学 各1名）

◆指標に基づくこれまでの成果

- 令和4年度に開発した7週間のオンライン+5週間のカナダでの研修から構成される研修により、これまでに17名がTEFLの資格を取得
- IELTSの結果から多くの参加者のCEFR B2レベルの英語力を確認
- 研修前後の模擬授業の比較より、主に生徒を意識した話し方への改善や、生徒とのインタラクションの増加、動機づけの観点のさらなる取り入れが見られ、参加者の授業の質の向上を確認
- 異文化理解・多文化共生力BEVI-jの結果の研修前後の比較から、参加者の国際性や多様性への対応などの向上を確認

◆令和6年度の主要な取り組み

- 「第2の研修プログラム」開発：研修B開発・実施（参加者2名）→ 研修A参加者11名と合わせて13名全員TEFL資格取得
- 他機関で同種プログラムを開発・実施するに当たってのマニュアルプロトタイプ作成



今後の課題

- 国内他機関への展開が思うように進んでいないため、研修先とも連携して広く教員養成に関わる機関に広報していく必要がある。
- 持続可能な取り組みとしていくための内容の再検証、運営面でのスリム化などをはかっていく必要がある。

※本内容は文部科学省においてWebサイト等で公表することがある。